

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【尾間木中学校】

学力向上 アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する 資質・能力	(1) 根拠を明確にしなが、自分の考えを伝えることができる資質・能力 (2) 自らの学習を調整することができる資質・能力
↓	
実施する学力向上策 【時期・頻度】 (2月)	(1) 校内研修での教科の枠を超えた話し合い活動や教科会での情報交換を通じて、各教科において、 個々の課題解決に向けた活動や言語活動を通した生徒同士の関わりの場を多く取り入れる【各単元 の中で1回以上】 (2) 課題解決の過程における自分や友達の学びの深まりや疑問に思ったこと、自分の学び方につい てをふり返ることができる時間の設定。【単元末】

⑤	年度末評価結果分析(2月)	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
		さいたま市学習状況調査(学力) <小3-中3>(1月)
今年度の成果と 次年度の課題		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果	調査の振り返り(4月) ①児童生徒による振り返り ②調査問題の解説 ③振り返りの終了報告	学力向上策の実施 ①学校全体での取組 ②単元テスト・定期テスト 等の分析・活用 ③調査問題を活用した授業
結果から考えられる 児童生徒の実態	結果から考えられる 児童生徒の実態(7月)	

④	さいたま市学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果	学力向上策の充実 ①学校全体での取組 ②単元テスト・定期テスト 等の分析・活用 ③中間評価を経ての取組 ④調査結果を活用した授業	
結果から考えられる 児童生徒の実態		

③	中間評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	
学力向上策の 見直し	中間評価(9月) ①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【尾間木中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	学年での差が見られるが全体としては基礎的・基本的な知識・技能の定着を十分とはいえない結果となった。来年度以降も、基礎的・基本的な知識・技能の定着に向け、引き続き取り組みを続けていくとともに、教科会等を通じ、より効果的な手段を考えていきたい。
思考・判断・表現	主体的・対話的で深い学びに向けて授業改善をさらに推進し、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、令和7年度同様に肯定的な回答の割合において高水準を維持できるよう取り組んでいく。

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 基礎的・基本的な知識・技能の習得が十分とはいえない教科がある。 <指導上の課題> 習得した知識・技能を活用する学習活動を学級全体で設定しにくい。	⇒ スタディサプリの活用、ドリルパークやFormsでの小テスト等を活用し、基礎的・基本的な知識・技能の反復・習熟に取り組む【教科ごとに定期的に実施】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語の「話すこと・聞くこと」の内容において、学年間で差ができていく。 <指導上の課題> 子ども主体の学びとなるような授業や言語活動を通じた生徒同士の関わりが、教科や学年によって差がある。	⇒ 校内研修での教科の枠を超えた話し合い活動や教科会での情報交換を通じて、各教科において、個々の課題解決に向けた活動や言語活動を通じた生徒同士の関わりを多く取り入れる【教科ごとに定期的に実施】

全国学力・学習状況調査
<小6・中3> (4月～5月)

⑤	評価(※)	調査結果	学力向上策の実施状況
知識・技能	B	結果分析(管理職・学年主任等)	基礎的・基本的な知識・技能の定着に向け、スタディサプリやドリルパーク、Formsでの小テストおよび、紙での小テストや振り返りシートなど教科ごとに、デジタルとアナログを実態に応じて併用し、計画的に行っている。
思考・判断・表現	B	職員会議・校内研修等	R7年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が全ての学年において市平均と同等、もしくはわずかに上回っている。各教科において個々の課題解決に向けた活動や言語活動を通じた生徒同士の関わりを多く取り入れている。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	数学の「知識・技能」における正答率は、全国および県の正答率と比較すると同程度がそれ以上であり、概ね良好であった。各教科の授業における基礎的・基本的な知識・技能の反復・習熟の取組みの成果が着実に表れていると考えられる。しかし、国語の「言葉の特徴や使い方にに関する事項」については、やや苦手とする傾向が見られた。理科については「知識・技能」に関わる設問に対する正答率が全国および県の正答率と比較すると低かった。
思考・判断・表現	国語・数学の「思考・判断・表現」における正答率は、昨年度と比較して上回っており、概ね良好であった。また、国語の「書くこと」における正答率は、全国および県の正答率と比較すると他の項目よりも大きく上回っていた。各教科において、個々の課題解決に向けた活動や言語活動を通じた生徒同士の関わりを多く取り入れる取組みの成果が着実に表れていると考えられる。理科については実験等に関する思考力に課題を感じる結果であった。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	1年生では、国語、理科においては、市の平均正答率と同程度、社会、数学においては、大きく下回る結果となった。2年生では、昨年度と同集団との平均正答率を比較すると、全ての教科において、わずかに上回る結果となった。各教科の授業において、基礎的・基本的な知識・技能の習得を目指し取り組んでいるため、次年度も継続していく。
思考・判断・表現	1年生では、理科において市の平均正答率を上回り、良好な結果となった。2年生では、昨年度、同集団との平均正答率を比較すると、国語、社会、数学においてはわずかに上回る結果となった。各教科において、個々の課題解決に向けた活動や言語活動を通じた生徒同士の協働の場を多く取り入れており、学年や教科によって差が見られるが少しずつ力がついてきている。

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	多くの教科で、定期的に基礎的・基本的な知識・技能の反復・習熟に取り組むことができていた。	変更なし
思考・判断・表現	B	各教科において、個々の課題解決に向けた活動や言語活動を通じた生徒同士の関わりを取り入れることができた。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)